

第7日

平成22年9月7日（火）

午前10時零分開議

○議長（柴田裕隆君） これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は22名で、会議が成立いたします。

本日の議事日程については、お手元に配付のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、6日に引き続き一般質問を行います。

それでは最初に、4番浅尾静二議員の質問を許可します。4番浅尾静二議員。

（4番浅尾静二君登壇）

○4番（浅尾静二君） 皆さん、おはようございます。4番浅尾静二でございます。

きょうは台風が接近しているということで、大した風が吹かなければいいがなと、そういうふうに思っております。また、そういう中で、きょう議会傍聴に大勢の方に来ていただきましてありがとうございます。

さて、今回4月の市長選挙におかれまして、森田市長が新しく2代目の朝倉市長として御就任をされたわけでございます。その中でマニフェストがいろいろ「7つのビジョン」というところで書かれておりますし、その中で1番印象に残る言葉が、やはり、親と子と孫が3世代一緒に暮らす。そういうふうな朝倉市をつくっていくんだぞと、こういった理念を打ち立てられております。すばらしい朝倉市になってほしいなと私も思いますし、私も議員となりまして、特に、この甘木町、中心市街地の問題を政策目標に掲げて議員にならしていただいたわけでございます。それぞれの議員、いろいろの地区の代表から出てきてありますし、農業問題、それから福祉の問題、教育問題、環境問題、いろいろ皆さん背負われながら、この議員活動をされているものだと思っております。この森田市長の掲げられましたマニフェスト、「親と子と孫と一緒に暮らせるまちづくり」というところで、そういった皆様の得意分野を力を合わせながら、市長の公約のもとに我々議員も力合わせて、すばらしい朝倉市づくりをやっていければいいなというふうに思っております。

きょうは森田市長に対しまして、初めての一般質問でございます。どうかよろしく願いをいたしておきたいと思っております。

それでは、質問席に戻りまして質問をさせていただきます。

（4番浅尾静二君降壇）

○議長（柴田裕隆君） 4番浅尾静二議員。

○4番（浅尾静二君） それでは、質問項目に従いまして質問させていただきたいと思っております。

まず、中心市街地における総合的な課題についての質問をいたします。中心市街地の役割についての、これは理念といいますか、そういったことの私の考え方ですけども、先ほど言いましたように、森田市長のマニフェストの中には、「甘木地区、朝倉地区、杷木地

区、それぞれの特色を生かした均衡ある発展を目指していきます」と、そういうふうに掲げてあります。農業であり、林業、観光、商業、工業など、それぞれの地区で特色があり、特にこの甘木町においては、商業を中心として、中心市街地としての特色を持った地域でございました。ご存じのとおり、中心市街地の衰退は甘木町だけの問題ではなく、全国の、特に地方都市で抱かえている問題でもございます。モータリゼーションが進み、大型商業施設、それから公共公益施設が郊外へ進出しまして、さまざまな要因で中心市街地が衰退し、町の空洞化がおきました。この甘木町の特徴は商業を中心とした町でございまして、商業と住居が共存できたと、ここが1番の特徴であります。現状は中心商業が衰退して、町中で暮らす人が減少し、若い人が少なくなり、高齢者だけが残ったというような雰囲気にもなってきつつあります。

中心商業が衰退して、町の空洞化により、どのような影響が出たのか、わかりやすい事例として、1つ紹介をしたいと思えます。

私も消防団の経験がございまして。森田市長も当然安川の分団長という経験もされまして、特に消防についてはいろいろお詳しいかと思えますが、今、朝倉市の消防団員の確保につきましても、どこの分団でも苦勞しているのは今の現状でございまして、特に16分団、特に甘木分団に関しては、以前は自営業者がほとんどでした。私も今現在51歳、ちょうど消防に入団したころは二十六、七ですから、約25年も前の話になるんですけども、その当時は自営業者がほとんどで、毎月2回手入れがあるんですけども、今、どこの分団でも恐らく夜やってるんでしょうけど、その当時は昼間やっておりました。それぐらい昼間の昼間人口が多かったと。消防団員にしても、そういうふうな形で、特に職業が自営業者が多く、今はかなり自営業者が減ってきてるんじゃないかなと思っております。そういう中で特に昼間の災害とかがありましたときに、サイレンが鳴りまして駆けつけたときには、車を動かすのに二、三名ぐらいしか集まってないというふうな状況で、大きな災害に対しても非常に心配をするような時代になってきつつあります。中心部の商業が発展して、それから中心部の商業が担っていて、いわゆる町のにぎわいとか、そういったことも、この甘木町の大きな役割でございました。山笠とか、それから花火大会等、いろいろございましたけども、こういったことも、やはり、伝統文化、伝統行事もどんどん寂しくなっているというふうな状況でございまして。が、これは朝倉市、甘木町に限ったことではございまして、少子高齢化、人口が減少をしていく中で、それぞれの地域での役割を行政と住民が知恵を出し合っていかなければなりません。観光、農業など、それぞれの役割がある中で、この中心市街地の甘木町は今後どのような役割を果たしていかなければならないのか、どういった町を目指すのか、こういった理念が非常に大事になってくるわけです。これだけ郊外で商業が発展して、またインターネットなども行き渡って、いわゆる通販と、そういった買い物の仕方もどんどん今の時代に浸透をしてきております。まちづくり、いわゆる中心市街地を活性化するということは、イコール商業というところのイメージがあるん

ですけれども、なかなか、そういったことも困難になってきたわけでございます。町の特徴といたしましては、やはり病院とか、銀行、それから郵便局など、さまざまな公益公共施設がそろっていて、町中で歩いて暮らせるのが、非常に特徴でもありますし、歩いて暮らせるまちづくりを目指す。そして町中で暮らす。町中で住みよい環境を整備していくのが、この甘木町の役割じゃないかなと。町中で暮らす。町中居住ということを1番政策目標として上げていくべきではないのかなというふうに思っております。いわゆる、今からのビジョンとして考えられるのは、住むこと。住んで町の役割を果たす。そして定住者がふえて、働く人がふえる。いわゆる自営業者、個人事業者等がふえていく。そして、いわゆる楽しいことですね。お祭り、イベントなどを通して、町のにぎわいを復活させる。そして人の役に立つこと。これは今から協働のまちづくりとか、そういったことが盛んに言われておりますけれども、ボランティアをしながら、人のお役に立ちながら、また楽しいことをしていくのが、こういったことで皆さんが今からの役割をそれぞれ果たしていけばいいのかなと、そういうふうに思っております。私はそういったことが今後のまちづくりのキーワードになっていくんじゃないかなというふうに思っております。このことが、私は今からのまちづくりの理念として掲げて、地元の皆さんといろいろお話をしながら進めていきたいと思っております。

このことに関しまして、市長、どういうふうに思われるか、感想を聞かせていただきたいと思っております。

○議長（柴田裕隆君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今の浅尾議員、今日までですね、議員になる以前から、甘木地区をどうかせないかんということで、熱心に市街地の活性化に取り組んでいたということ、私も十分承知をしております。その上でですね、中心市街地の役割と申しますか、どういうものかという御質問でありますけれども、まずですね、新市計画の中でも、甘木町については朝倉市の中心市街地だという位置づけがなされております。市街地の理念と申しますか、考え方、こういったものをもって中心市街地とするかということを考えてみますと、やっぱり、中心市街地の要素としましてはですね、商店街や金融機関を初め医療機関などの生活利便施設が集積していること。あるいは公共交通機関や国県等の出先機関もそろっておると。その条件をいわゆる甘木町は備えておるということであります。そこでですね、じゃあ、将来的に見据えた場合に、今後、今もう既に我が国は少子社会、高齢社会にも入っているわけです。おまけに人口減少という状況になっておるわけでありまして、その中でも特にですね、朝倉市を含んだ地方と言われる地域は、その傾向が非常に顕著である。そこでですね、私は何とか、この地域で生まれ育った人たちが、この地域でですね、一生を全うしようと思えばできるような地域をつくらなきゃならんということで、親と子と孫と一緒に暮らせる地域という表現でさせていただきまして、そういった地域をつくらうということで、選挙のときから訴えさせていただいております。既存、いわゆるですね、

甘木町については、先ほど申しましたようなことでありますけれども、今、その中でですね、いわゆる当初、区画整理事業というような形で進められておったんですけれども、このことについては、いわゆる、今進めておる「プラン21」というものが、そのかわりの事業だということで、今日まで進められてまいりました。この事業につきましてはですね、特に今、国のまちづくり交付金事業というような形で市も取り組んでおりますけれども、今現在ですね、進捗状況にしても粛々と、順調にですね、進めさせて、もちろん地域の皆さん方の協力もありまして、進めさせていただいております。現在進めておりますのは道路や、もう既にご存じと思いますが、道路や公園、地域センター等の公共施設の整備改善によって、中心市街地の都市機能を高めていくということ。あるいは、そうすることによって、新たな民間の投資を促していこうということで進めておるわけでありましてけれども、そこでですね、大事なことは、もちろん市が行います事業、今、行っております事業について進めていくということも非常に大事なことでありますけれども、もっと、それよりも大事なことは、いわゆる甘木町という地域、その事業が、ハード事業が後にですね、どういう地域づくりをしていくのかということですね。それは行政がこうしなさい、こうしなさいという話ではなくて、やはり、第一義的にはそこに住む人たち、そこに住む人たちが、じゃあ、こういう地域をつくっていくんだということですね、やっぱり、地域住民の人たちがまず第一義的に、そのことについて考えていただく。それを行政と一緒にですね、お互いに一緒につくっていこうということが一番大事なことだろうというふうに思います。いずれにしてもですね、やっぱり行政と地域住民が一体となって進めていくということが一番大事なことでもありますし、私もそういう考え方の中でですね、事業を進めたいというふうに思っております。

○議長（柴田裕隆君） 4番浅尾静二議員。

○4番（浅尾静二君） ありがとうございます。市長が言われますように、行政と我々住民、民間が力を合わせながら1つの目標にやっていくというのは、非常に私も共感するわけでございますし、また、今の現状においてはそういうふうに進んでおるものと、私もそういうふう理解をしております。ただ、先ほどいいました、どういった町にするんだよと。こういったふうに今からまちづくりをやっていくんだよと、これは、「プラン21」は15年計画でございます。道路をつくったり、公園を整備したり、ハード整備は今から、あるいは地域センターとか、ハード整備はどんどん進んでまいります。しかしながら、地域の人たちの気持ちを一つにまとめるには、先ほどいいました、楽しいこととか、町中に暮らすとか、人の役に立つこととか、そういったことを理念として、皆さんと共有をしていかなければならないと。行政と一緒にその辺を共有しながらやっていきたいなというふうに思っております。

続きまして、まちづくりにおける公共交通の役割についてですけども、先ほど市長が言われましたように、今、朝倉市においては、おいてはといたしますか、全国どこでもそうで

すけれども、少子高齢化、いわゆる人口減少というふうな時代がどんどん進んでおります。その中で、この公共交通の役割を考えたときに、じゃあ、だれが何の目的で公共交通を必要としているのか。また、あるいは、今後どういった方々が必要となっていくのかなと考えたときに、今現在は当然いわゆる車社会でございます。朝倉市においては、1世帯当たり2.5台も保有している車の利便性といいますか、車に頼った生活をしなければならない地域であるということも一つの特徴であります。じゃあ、今のこういった状況があと20年たったときにどうなるかというところで、ちょっと具体的な数字を挙げさせていただきたいと思っております。今現在、朝倉市の人口は5万8,224名、これは8月末現在の数字でございます。朝倉市総合計画の中で人口の減少の話も出ておりますけれども、1つのデータとして、国立社会保障・人口問題研究所というところからの引用をされたデータがございます。それも改めまして調べましたところ、先ほどいいました5万8,224名が10年後には5万1,739人、20年後には4万6,036人というふうな細かい予想もしております。20年後には今よりも2割以上人口が減少していく。その中で、また高齢者の割合ですけれども、今現在が27.2%、これが20年後には37.1%と、10%以上上がっていくというふうな感じで、これだけ高齢者がふえていくんだよということになっております。また非常に車を運転する人にとって、1つの、去年からでしょうけれども、75歳以上の免許の保有者の方が更新のときに検査をしなければならないというふうなことが昨年法律で決まっております。そういうことで、じゃあ75歳以上の方がどういうふうに移っていくかという、今現在15.2%、2030年には24%というふうになってまいります。まさに4人に1人が75歳以上の方々になっていくというふうなデータも出ております。その中で、じゃあ車を、免許の保有者がどうなってるかといいますと、今現在、朝倉市において人口に対する免許の保有割合は67.91%でございます。この中で1番特徴的なのが25歳から65歳未満の方の保有者が人口に対して97.42%と、ほとんどの方が車の免許を持っている。65歳の方も現在において51.33%、半分以上の方が既に免許を持っていると。そういうふうな状況でございます。じゃあ20年たったときにほとんどの方が車の免許を持って生活をしていると。高齢者の方も運転していると。そういうふうな状況が見えてくるわけでございます。そんな中で先ほどいいました、じゃあ、どういった方がこの公共交通を必要にしてるかという、やはり交通弱者といわれます、いわゆる高齢者の方が中心になってくるんですけども、この公共交通を維持するには、経営的な観点からいいますと、民間でやるには非情に厳しいと、そういうふうな環境になってきておりますし、今現在、朝倉市でも補助金を出して運営はしてもらってますけれども、今後こういった状況が生まれてくる中での朝倉市としては、この公共交通は行政は責任を持って維持していくんだよと、そういう認識が我々も持つておかなければならないし、大事なことじゃないのかなというふうに思っております。そういう意味で、この税金を使ってやっていくにおいては、なかなか効率的なことも考えていかなければなりません。今、朝倉市においては公共交通連携計画というところで昨年から取り

組んでございます。大きな目的が公共交通の空白地域を埋めるとか、朝倉市で合併後一定のサービスを目指すと、そういった中でやっておりますけども、やはり先ほど言いましたように効率よく運営をしていかなければならないと。そういう意味で今取り組んでもらわないといけませんけども、特に幹線。幹線といわゆるそういった各地でやってありますデバンドバスとか、そういったことの乗り継ぎとか、利便性を上げていっていかなければならないと思っておりますけども、そういった取り組みもやっているのか、ちょっとお伺いをいたします。

○議長（柴田裕隆君） 総務部長。

○総務部長（樋口信尋君） 多岐にわたってのちょっと質問だと思っております。

最初の高齢者におけます運転免許証の取得状況については、私ども十分認識をいたしております。それから、だれが何のためにという目的の必要性だというふうに感じております。この公共交通を必要とされているのは自家用車を自由に使うことのできない方。いわゆる交通弱者だけでなく、すべての方々に必要というふうに思っております。例えば、仕事や観光など外出で使用することもありますし、現在、車を運転されていても将来において必要となることも考えますと、この公共交通の維持確保はすべての方々の共通課題だというふうに認識をいたしております。平成25年度には本計画が終了いたします。地域全体での公共交通レベルを一定確保できるかと、できるのではなかろうかというふうに考えておるところでございます。

○議長（柴田裕隆君） 4番浅尾静二議員。

○4番（浅尾静二君） そういったことで、朝倉市全域の連携を図っていくべきだということが今からの基本じゃないかなというふうに思っております。そういう意味で、中心市街地の問題は、問題はといいますか、特徴は、この朝倉市においては3つの高速インターがありますし、その高速インターを利用して高速バスも走っております。それから甘木鉄道、西鉄甘木線と、そういった形で、この中心市街地には充実した交通機関があるのが特徴といえます。この公共交通のそういった機関を活用していきながら、今後の中心市街地のいわゆる歩行者といいますか、車に頼らない人たちにとっての利便性を確保しなければならないという目的で、昨年、市街地巡回バスの実証実験が昨年行われて、見事に失敗というふうな形で一応終わったんですけども。失敗は、これは失敗という言い方は非常に語弊があるのかもしれませんが、目的の人数に足らなかったから、今回は一たん中止をして、またいずれ、またやりますよということでしたけども、そういったことはいいとしても、そういった課題がですね、実験をやって、課題がいろいろ見えてきたらと思ういます。その課題を今後生かさなければなりませんけども、どういった課題が見えたのか、簡単に説明をお願いいたします。

○議長（柴田裕隆君） 総務部長。

○総務部長（樋口信尋君） ちょっと言葉的に失敗というお話が出ましたけど、私どもは

失敗ということは決して思っておりません。この実証実験で見えてきた課題につきましては、この市街地として、機能性と利便性を兼ね備えていく必要があるということが見えております。簡単にということでございますが、鉄道やインターといった、この交通結節点への接続、それから各施設などを網羅した路線は必要不可欠であるということ。そのためにはですね、車社会にあって、バス利用の機運づくり、それから乗り継ぎやすさの接続のよさ、また運賃等の考慮も必要であったのではなかろうかというふうに考えております。今後においては、郊外の市民のための公共交通が確保でき、市街地へ乗り入れた、市街地へ乗り入れが容易になると。どういうことかといいますと、病院あるいは商業施設、金融機関等の移動確保がさらに必要となるということです。今後、本市においてはですね、このバス、鉄道、高速バスと交通の要所が散在していることから、これらを結ぶ上からも、市街地のこの巡回の機能性は重要であるというふうに認識をいたしておるところでございます。

○議長（柴田裕隆君） 4番浅尾静二議員。

○4番（浅尾静二君） そういったことで、今後また取り組んでいただかなければならない重要な機能だというふうに思っております。この去年行われました巡回バスの中でも交通拠点の連携をやるべきだということで、私も一般質問をいたしました。インターの乗り入れ、それから要所に甘木中央バス停の西鉄バス、それから甘観バスと、それから市街地巡回バスが同じ場所に乗り入れて、センター機能でやっていかなければならないよというふうな話もしておりますし、行政のほうも今回の実証実験で、そこら辺の連携をやっていかなければならないということは、結果として出てきたのかなど。見えてきたのかなというふうに思っております。

そういったことで、このバスセンターの開発についての話に入っていかせていただきたいと思いますが、やはり、今、甘木幹線、これは386号線ですけども、西鉄バスが走っております。この西鉄バスに関しましても、これは西鉄の自動車、西鉄バスの事業本部に問い合わせ、向こうから教えてもらった数字ですけども、今、甘木幹線バスが西鉄においても年間約7,000万円の赤字を出して運営しているそうでございます。全体でいいますと約34億円ぐらい、やはり今西鉄バスが路線バスを維持するために赤字をやって、うって、やっていると、そういった状況だというふうなことです。ただし、この甘木幹線バスにおいては、東高、朝倉高校と利用者も非常に多いし、西鉄としても社会的責任も大きいというところで、簡単に、極端な話、路線の計画をやめますよとか、減便をしますよというふうにはなかなか言えない状況だというふうにも西鉄さんは話をしてありました。そこで利便性を上げるには、そういう部分で連携を図らなければならない。バスの乗り入れをして、西鉄、今の中央バスセンターを、バス停をバスセンター機能としてやらなければならないというふうに、私は以前から、この一般質問の中でも申してまいりましたけども、この考え方について、市長はどういうふうに思われるか、お伺いをいたします。

○議長（柴田裕隆君） 総務部長。

○総務部長（樋口信尋君） 公共交通を利用する場合ですね、今申しました、この乗り継ぎを楽にできることや、待合、この環境を整備することは大切であるというふうに思っております。現在、市街地においては西鉄バスと甘木観光バスとそれぞれにバス停を設置しております。が、これに新規の公共交通が導入いたしますと、さらなる不便さを市民が受けるということも危惧されております。実際、現状申しますと、甘木観光バスの甘木中央バス停は、現在はちょっと簡単な日よけみたいな部分で、数年来利用者の皆さんにもですね、大変御不便をおかけしているという状況下でございます。今申しました、当然、結節点となる駅、主要バス停での乗り継ぎの利便性、あるいは利用者の快適性を求めていく必要性が今後十分あるというふうには考えております。

○議長（柴田裕隆君） 市長。

○市長（森田俊介君） 現在の状況についてはですね、今、総務部長のほうから答弁をいたしましたけれども、要するに甘木におけるですね、いわゆる交通の拠点はどうするかという、端的にはそれをどう考えているかという質問であろうかと思えます。確かに今の甘木の中央バス停、私ども高校時代はあのバスに乗って、あそこでおりて高校に通いました。その当時はですね、やはり、商店街もそうでありますけれども、非常にまだ活気がございました。残念ながら、今、バス停を見ますと、いわゆる386号の幹線については西鉄が運営をされております。その他の市内のバスについては甘木観光バスということですね、違った会社が運営をするということで、乗り入れがなかなか難しいということがございます。そういうことで、非常に市民の皆さん方に迷惑をかけてる面も多々あるんだろうと思えます。ただ、そこでですね、一つ、じゃあ甘木における交通の拠点をどうするかということになりますとですね、実は、これは区画整理事業当時の話として、私は直接的にはタッチはしておりませんでしたけど、聞いておりましたのは、いわゆる西鉄甘木線ですね、それと、いわゆる今甘木鉄道があります。あの中間に市として用地も買われております。一時期、あそこに交通の拠点を持っていこうという話がありました。ただ、それがですね、完全に消えたわけじゃないんですけども、整理がされないままに、どうするかということが整理がされないままに、今日至っておるといのが今の現状でありますから、これはですね、もちろん地元の皆さん、市民の皆さん方の意見を当然お伺いしますが、市としてですね、早急にじゃあ甘木における交通の拠点をどういう形にするかということですね、行政として検討してまいらなきゃならないというふうに考えております。

○議長（柴田裕隆君） 4番浅尾静二議員。

○4番（浅尾静二君） 私もそういうふうに思います。甘木鉄道周辺の拠点の考え方をどうするかということで整理をしなければなりませんし、この件につきましては、6月議会でも大内田議員のほうから、バスセンター開発についてのお話があります。この交通拠点の考え方については、先ほどいいました、やはり、甘木幹線を中心とした西鉄バスを

中心にバス交通に関してはやっていくべきだと思いますし、鉄道に関しましては、当然、甘木鉄道西鉄電車を中心とした中でやっていかなければならない。行き先につきましても、西鉄電車は御承知のとおり久留米、甘木鉄道に関しましては博多駅、当然、基山、もちろん小郡で乗りかえて天神までも行きますけども、バス交通に関しましては、福岡方面に向かうということで考えれば、天神、朝倉街道をぬけて天神と。天神の利用についてはバスのほうが便利がいいんじゃないのかなというふうに私は思っていますけども、それは、そういった考え方で。鉄道とバスのこの二極化は考えなければならぬ大きな問題じゃないのかなと思っています。あわせて、バスセンターの開発については、市長もご存じのとおり、「プラン21事業」が今進んでおります。これとの事業の関連性も非常に高いと思っておりますし、以前から、きょうは地元の皆さんも議会の傍聴に来てありますけども、振興会、区会長会を通じまして、西鉄さんのほうにバスセンターのトイレを充実してくれとか、そういったことの申し入れも何回となくされております。やはり、今からの観光を意識した中で、朝倉市もやっていかなければなりませんけども、やはりバスを考え、いわゆる公共交通機関を考えたときに、朝倉市から、いわゆる都市圏に向かうのは当然これは買い物とか、レジャーとか、あるいは学校とかございますので、それは行くのは当然でございます。しかし、福岡都市圏から、この朝倉市に向かってきたときに、何のために利用するかとなったときに、やっぱり、その要件をつくらなければならないというところで、今、この朝倉市は観光政策に力を入れて、秋月郷土館とか、三連水車とか、原鶴温泉とか、いろんな特色がこの朝倉市にはあるんですけども、そういった福岡都市圏のお客さんをお呼びするためにも、この公共交通は充実しとかなければなりませんし、やはりバス機関に関する拠点整備は、私は必ずやるべきものだというふうに思っております。今、市長は、今後検討していくと言われておりましたけども、ぜひですね、この件に関しましては、今までの前市長のときにはそういった経緯がございまして、3月議会にも担当課からの説明はございましたんですけども、一応、話は今のところとまっております。ぜひ、もう一度、この整備についての検討するための議論をもう一度始めていただきたいということを強く要望をさせていただきます。

そして、先ほど言いました拠点整備、甘鉄周辺の問題に入っていきますけども、これは322号線のバイパスの問題があったんじゃないかなというふうに思っております。東田交差点までは、久留米の方面から、そのバイパスの計画ができて、恐らく平成27年ぐらいだったと思いますけども、それぐらいに交差点まではできるよというふうな計画が立っております。当然市長は、その辺の事情についてはもちろん県会議員の時代から取り組んでございますし、1番詳しいだろうと思いますけども、その先、東田交差点から甘木に向かっている路線が今のところ、まだ計画としては決まっていないという中で、いわゆる322の路線計画の話で、ショートカット、いわゆるちょうど甘鉄の前のクランクになった道をショートカットして、西鉄電車を移動させて、甘鉄と西鉄電車の駅の統合を図り、そこにバ

スターミナルをもってきて拠点整備をするんだよという考え方だったと思います。私も実は平成19年12月議会でこのショートカットをすべきだというところの一般質問を私自身もやったんですけども、やはり、今の朝倉市の経済状況なり、いろいろ考えたときにおいては、もうショートカットは本当にする必要があるのかなというふうに私も考えを改めようと思っております。思いました。で、このプラン、あとは、あそこの路線を真っ直ぐ、今の庄屋町通りですね。庄屋町通りを結んだ中で、やはりバスセンターと甘鉄周辺を結ぶ、この道としてですね、二極交通拠点の二極をつなぐ道の位置づけとして、この庄屋町通りをいずれは整備をすべきじゃないかというふうに思っておりますし、ショートカットもあえて今後はする必要がないのかなというふうに、私自身は思っております。このことについて、市長、何かございましたら、よろしく願いいたします。

○議長（柴田裕隆君） 都市建設部長。

○都市建設部長（高良 寛君） 東田交差点から、いわゆる北側の国道322号ですね。それから、これはまた都市計画道路として、庄屋町・東田線という街路名を持った道路でございます。

現在のこの計画につきましては、実は昭和29年都市計画を決定をした際にですね、もう既に決定をしました。いわゆる駅の交差点と東田の交差点を真っ直ぐ直線に結んだ計画ラインになってございます。したがって、原道とのずれが今の計画ラインとは出ております。場所によっては道1本ですね、丸々違うといった箇所も一部には見られておりました。こうしたものを含めてですね、いわゆる都市計画の指針が変更になった際に、いわゆる30年以上、都市計画決定をして、まだ未着手の事業ですね。いわゆる長期未着手。この事業の対象となっておる都市計画道路については見直すべきではないかというふうな指導がされてきてですね、実は本市におきましても、全県的にこの見直し作業を進めてまいっております。その際に、この当該のいわゆる庄屋町・東田線につきましては、見直しの対象路線というふうに今位置づけております。同時に、ほかの都市計画道路もこれに関連しておりまして、現在、堤のほうからですね、事業を進捗しております千代丸・堤線、これの交差点もこの道路と関連をしておりますし、あるいは堤防敷に並行して通っております甘木駅・馬田線といったほかの都市計画道路も関連をしておりますので、この国道322の甘木バイパス整備の進捗と並行した見直し作業が必要というふうに認識をしております。ちなみに、322のバイパス、甘木バイパスの整備につきましては現在進んでおりました、この区間は3期の工期に分けられて、今進捗中でございます。来年の3月にはいわゆる大刀洗のあの交差点から、場所としましては馬田橋直下の下浦橋から寒水に行くですね、あの市道までが供用開始の予定でございます。市道につきましてもですね、関連をして、あわせて本年度整備の計画でございます。全体計画は若干おくれ気味だということは聞いております。そういった進捗とあわせて見直しが必要という認識に立っております。その際に、議員が言われるですね、原道を中心とした現代の路線を見直すとすれば、原道を中心

にした見直しの考え方でいくのか、いわゆる現代の庄屋町交差点に結びつく、そういったルートで検討すべきなのか、言われる、いわゆる322号の八丁トンネルが開通した、その後の交通量のいわゆる処理を想定したときに、今の言われますクランクの解消という課題も一方ではございますので、一概にこれがという結論には現在のところ至ってないところでございます。しかし、時間的にはですね、今言ったことがありますので、急ぎ検討は進めなきゃならんという立場で現在検討中でございます。

以上です。

○議長（柴田裕隆君） 4番浅尾静二議員。

○4番（浅尾静二君） この路線計画につきましては、今、都市計画マスタープランの見直しをされているということで、私の考え方というところで、きょうは申し述べさせていただきましたけれども、一番肝心なのはバスセンターの拠点と、それから鉄道の拠点を整備をすることによって、今の庄屋町通りを中心とした連携をする道だと。そういうふうな位置づけを考えた中でのショートカットは、あえてする必要はないんじゃないのかなというふうなことを言わせていただきました。今後また、いろいろ検討していただきたいと思います。

それでは、次の問題に入らせていただきます。

今度は市庁舎建てかえの件でございますけれども、もう時間もさほどございませんので、もう簡単にいかせていただきたいと思います。簡単にというふうな話ではないんですけども、手際よくいきたいと思います。

まず、今の問題点を上げさせていただきたいと思いますが、とにかく施設が合併して狭くなったというところで、市民の方々が、利用者の方の利便性が非常に悪くなって、プライバシーもなかなか守れない。今、複雑な相談も出てきておりますし、プライバシーが守られにくくなっていると。それから、いろんな用件をするときに、面談室とか、相談室が不足してるんじゃないかと。それから、当然、今、農林商工部が朝倉支所のほうにおられますけれども、それから教育はピーポートにおられます。そういった中で、非常に事務効率が悪いというふうなところ。それから、今から地方分権が進んでいくでありましょうし、そうなってくると、国からの権限委譲なり、この朝倉市役所、いわゆる市行政の役割が非常にまたふえてきますし、交付金の一元化で一括交付金とかになってきますと、ますます事務量が莫大にふえてくるのではないのかなと思っております。当然、耐震の問題もございます。大きな地震が来たときにはどうするんだと、そういった話がございますので、あと当然、御承知のとおり合併特例債があるというところで、今の時期だったらどうだろうかというところで、この質問を出させていただきましたけれども、こういったことで、市長、今の市庁舎を立て直すことを、すぐやる、やらないは別としても、検討をするつもりがあるのか、ないのかをお聞きしたいと思います。

○議長（柴田裕隆君） 総務部長。

○総務部長（樋口信尋君） この新庁舎建設の必要性につきましては、市庁舎の施設の老朽化、それから施設の機能、スペースの確保、それから施設の耐久性、価値観の検証、こういった問題もあります。それから老朽化への対応と耐震性の確保、施設の機能、規模の確保など、さまざまな考え方があろうというふうに思っております。ただ、ご存じのように、本庁舎は昭和48年6月に竣工でございます。建築基準法で定めます耐震構造ではないということ、それから老朽化し、そして極めて狭隘化してるという事実は事実でございます。総合的に議論することが必要であるというふうには思っております。

○議長（柴田裕隆君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今、総務部長が申しあげましたようにですね、この市庁舎は昭和48年に建てられた物であるということですね、古くなったということは否定できない事実であります。そこで、じゃあ庁舎をどうするのかと、市長どう考えるのかということでもありますけども、確かにですね、古くなって、狭い。そういった中で、市民の方に迷惑をかけておるとすれば非常に申しわけないことではありますけど、まずはですね、そこあたりは職員、皆知恵を出してですね、何とか現在の庁舎を有効に市民の皆さん方に御迷惑がかからないような形の中でですね、使っていくということが、まず第一義に考えております。

それと、耐震の問題でありますけれども、これにつきましてはですね、まだ市内の学校等で耐震の事業をやらなきゃならん施設が随分残っております。まず、そちらを先にやらしていただくという考え方がありますので、現在のところ、私自身としてはですね、市庁舎の建てかえについては考えておりませんということ申し上げます。

○議長（柴田裕隆君） 4番浅尾静二議員。

○4番（浅尾静二君） 今、市長の考え方を繰り返させていただきますと、やはり、まだ学校の耐震の問題とか、そういった整備を進めなければならないという問題を先にやった上で、今のところは市庁舎を建て直すつもりはないというふうなことで、市長の考え方を今聞かせていただいたわけでございます。

じゃあ、今後、この朝倉市の耐震の問題、非常にこれは重要な問題でございましょう。じゃあ、この耐震を、今から対策をですね、この市庁舎、今の本庁舎の中で取り組んでいくのか、どうするのか。そういったことも含めて、やはり市長だけの考え方も当然、朝倉市のトップですから、それが最優先というのが当然わかっておりますし、優先順位がありますので、いろんな事業を先にやっていくのが当然でございましょう。しかし、そういった広い考え方の中で、特に財源の問題がある中でこういった検討する、一度は検討をしなければならぬ問題じゃないのかなというふうに思ってますけどもそういった検討は、私は今回やるべきじゃないのかなと。建てる、建てないは別でございます。1回は耐震の問題について検討する時期に来てるんじゃないのかなと思います。再度、市長の考え方をお聞きいたします。

○議長（柴田裕隆君） 総務部長。

○総務部長（樋口信尋君） 私、先ほど申しましたように、市長も申しましたように、建てかえは考えてないということですが、この耐震の問題ですが、先ほど私が申しましたようにですね、いろんな、今後総合的にですね、こういった分を議論していく必要があろうというふうにはですね、思っておるところでございます。

○議長（柴田裕隆君） 市長。

○市長（森田俊介君） 検討という言い方が適切かどうかは別としてですね、確かにもう古いわけですし、じゃあ、この庁舎についてですね、危険性いろいろありますんで、そういった面での調査・研究と申しますか、そういったものは当然やっていくべきかなというふうに考えております。

○議長（柴田裕隆君） 4番浅尾静二議員。

○4番（浅尾静二君） そういったことで、ぜひ、今後の一つの重要な案件としての位置づけの中で検討をしていただきたいと思います。

少々時間が余りましたが、以上にて、一般質問を終わらせていただきます。

○議長（柴田裕隆君） 4番浅尾静二議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午前10時52分休憩